

石巻市防災主任研修会の講師を務めました（2021/6/22）

テーマ：石巻市、防災主任、防災管理、防災教育、防災教育国際協働センター
場 所：石巻市 遊学館

2021年6月22日（火）、石巻市役所河南総合支所遊楽館において、石巻市教育委員会の主催により第1回防災主任研修会「学区の地図を活用した災害リスクの理解」が開催されました。本研修は、共同研究プロジェクト「ハザードマップの想定外を踏まえた学校防災と地域防災の融合に関するモデル構築」の一環として実施しました。研修には、石巻市内の公立学校園に10名配置されている安全担当主幹教諭、ならびに各校に1名ずつ配置されている防災主任担当教諭、合わせて57名が参加しました。桜井愛子教授、佐藤健教授（ともに防災教育実践学分野）、山形大学大学院教育実践研究科の村山良之教授が研修の講師を務めました。

研修は、学区の災害特性を把握するためにそれぞれの学区の自然的特性、すなわち土地の特性に焦点を当てながら、その有効な情報源であるハザードマップを理解し、その想定外まで考えられるようになることを目指して行われました。災害科学国際研究所のプロジェクト連携研究センター、防災教育国際協働センターにて公開されているオンライン講座「学区の地図を活用した災害リスクの理解」(<http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/ja/online>)と連動しながら、事前学習として「1. 学区のハザードマップを読む」を視聴した上で、会場にて「2. 学区の地形図を読む」、「3. 学区の地形分類図を読む」、「4. 学区の地形からハザードマップの想定外を考える」の順で、実際に勤務する学区の地形図、地形分類図、色別標高図などを用いて、学区の地図を活用した災害リスクの理解を深めていきました。

事後アンケートからは、受講生の以下のようなフィードバックが得られています。

- ・ 「地域のハザードマップを中心に防災マニュアルを作成していましたが、自分でも地形図等を読み取ると、さらに学区のハザードが分かると感じました。児童への指導も、根拠を持ってできると思いました」
- ・ 「防災学習をする際、生徒に地形図や地形分類図を読み込む授業を行いたいと考え、その際、生徒にどんな災害が起こりうるか考えさせ、災害に対して常に備える心掛けや避難の仕方を確認すると、防災学習の理解が深まると感じた」
- ・ 「様々な条件を地図などから読み取り、それらをもとに判断したり、気づいたりしていくことが大切なのだと感じました。マニュアルはあくまでマニュアルであって、日々更新されている情報にもしっかりと目を向けていきたいです」

研修をきっかけに防災マニュアルの拡充、防災教育への活用、日々の防災意識の向上等への波及が見られるコメントが多く寄せられました。宮城県では2020年12月に「宮城県学校防災体制在り方検討会議報告書」をとりまとめ、①教職員の様々な状況下における災害対応力の強化、②児童生徒等の自らの命を守り他者を助ける力の育成、③地域の災害特性等を踏まえた実効性のある学校防災体制の整備、④地域や関係機関等との連携による地域ぐるみの学校防災体制の構築を目指しています。学区において各学校の防災主任が、地域の災害リスクを十分に理解して想定外に備えられるような力を付けていくために、今後も実践研究とともに、教員の防災力向上を支援していきます。

文責：佐藤 健・桜井 愛子（防災教育実践学分野）
（次頁へつづく）



研修会場の様子